近 畿 地 方 交 通 審 議 会

近畿船員部会議事録

第216回

令和８年９月２４日

日　時　　令和８年９月２４日（木）　１６時００分から

場　所　　近畿運輸局　会議室（船員部会室）

出席者　　公益委員　　横見委員、山浦委員、三輪委員、安達委員

労働者委員　山﨑委員、佐藤委員、小林委員（WEB）

使用者委員　礒合委員、土屋委員、開委員

運　輸　局　寺地海事振興部長、山口海事振興部次長、
田中船員労政課長、大崎船員労政課専門官、
安井船員労働環境・海技資格課長

議題１．管内の雇用等の状況について

議題２．その他

議　事　概　要

横見部会長：

それでは、ただ今から第２１６回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第２１５回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思います。ご異議ございませんか。

（異議なし）

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

それでは議題に移ります。

最初に、議題１の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

田中船員労政課長：

それでは「令和８年８月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

１．職業紹介状況

①求人関係

新規求人数は、５５人（前月比－１１人、１６．７％の減、前年同月比：±０人、増減なし）となっています。

月間有効求人数は、１６２人（前月比＋３人、１．９％の増、前年同月比：－１９人、１０．５％の減）となっています。

②求職関係

新規求職者数は１１人（前月比－１人、８．３％の減、前年同月比－１人、８．３％の減）となっています。

月間有効求職者数は３２人（前月比＋４人、１４．３％の増、前年同月比＋１人、３．２％の増）となっています。

③成立状況

当月の成立数は、５人（前月比：＋３人、１５０．０％の増、前年同月比＋１人、６６．７％の増）となっています。

２．新規求人・求職者の取扱実績

①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員４５人（甲板部２７人、機関部１８人、無線部０人、事務部０人）、部員１０人（甲板部７人、機関部０人、無線部０人、事務部３人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員５人（甲板部２人、機関部３人、無線部０人、事務部０人）、部員６人（甲板部４人、機関部２人、無線部０人、事務部０人）となっています。

②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が１人、定年退職０人、雇用期間満了１人、本人の申し出５人、自己の健康０人、倒産０人、就労中２人、不明２人となっています。

③新規求職者の年齢別

３０歳未満４人、３０歳代３人、４０歳代０人、５０歳代３人、６０歳以上１人となっています。５０歳以上は４人で占める割合は３６．４％、３０歳未満の占める割合は３６．３％です。

３．失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は２２人で、基本手当の支払実人数は３人、給付件数は３件となっています。給付金額は６０９，５１６円です。前月は４人、給付件数は６件、給付金額は８９１，８４０円でした。

それから、高年齢求職者給付金が０件、０円、再就職手当が１件、４２４，９３５円、就業促進定着手当が０件、０円、その他が０件、０円。よって、当月支給額計は、１，０３４，４５１円となります。

４．月間有効求人倍率の推移

８月の近畿船員は５．０６倍で、前月比－０．６２ポイント、前年同月比、－０．７８ポイントとなっています。

５．近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は１６２人で、このうち、新規求人者数は５５人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は２人、他局成立は２人でございました。

求人の取り消しは５８人で、理由の内訳は有効期限切れ５７人、自己応募・縁故により採用１人、会社都合により取り下げ０人、その他は０人となっています。

②月間有効求職者は３２人で、前月との差は＋４人でした。

当局の紹介による求職側の成立は１人、他局成立は１人でした。

求職の取り消しは８人で、理由の内訳は期限切れ５人、自己応募・縁故により採用０人、自己都合により取り下げ３人、その他０人となっています。

６．全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①７月の全国の月間有効求人数は、２，９２２人で、前月比１１２人増の１０４．０％、前年同月比３５６人減の８９．１％となっています。

②７月の全国の月間有効求職数は、６９４人で、前月比４６人増の１０７．１％、前年同月比９１人増の１１５．１％となっています。

③７月の全国の成立数は３３人で、前月比２人増の１０６．５％、前年同月比６人増の１２２．２％となっています。
④７月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により４．２２倍となっています。全国陸上は季節調整値により１．１８倍となっています。
以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：
ただ今のご説明につきまして、何かご質問はございますか。

山﨑委員：
資料２の４ページの上から６・７行目にある「まぐろ漁船」の求人がございますが、これは同じ会社の求人でしょうか。

田中船員労政課長：
そうです。

山﨑委員：
甲板員が２人少ない状況で現在操業しているのかわかりませんけれども、おそらく漁船マルシップ方式で配乗されていると思います。
外国人の配乗の人数も決まっていると思いますが、実際に届出されている外国人と日本人の人数が実際の配乗人数と合わないという実態がございますので、現在どういう状況であるのか、また、届出と合わない状況で操業しているのであれば、行政指導をお願いしたいと思います。

田中船員労政課長：
現状、操業しているかどうかこちらでは把握しておりませんので、和歌山の方に確認をとりまして、情報を整理したいと思います。

山﨑委員：

私達も和歌山の方に行く機会ありまして、直接船に行くのですけれども、外国人はいても日本人がいないという状況もございます。私たちの方では詳しく調べられないところもございますので、運輸局の方でそのあたりのチェックをお願いしたいと思います。

もう１点質問させていただきたいのですが、資料１の２ページ目に「新規求職者の職種別内訳」がございますが、その中に「本人の申出」の理由の方が５名いらっしゃいます。もし、具体的にどのような退職理由を抱えて辞められたのかというところまでお聞きされているのであれば、一部ご披露いただければと思います。

田中船員労政課長：

自己都合の詳細の内容につきましては、手元に資料がございませんので、どこまで確認できているかも含めまして、次の船員部会で報告できればと思います。

山﨑委員：

私たちも船員を増やすための確認をしていますけれども、一方で定着率も上げていきたいと考えております。退職理由をしっかり分析していきたい中で、この資料ですと年代も見えてこないので、どのような理由で辞められたのか、もし聞けているのであれば共有いただければと思います。

田中船員労政課長：

わかりました。

横見部会長：

はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

特に無いようですので、次に議題２の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

山口海事振興部次長：

資料４を説明申し上げます。

まず、令和８年７月分の内航海運の輸送動向調査の概要です。

貨物船は燃料が減少した以外は、鉄鋼、原料、紙・パルプ、雑貨、自動車、セメントは増加で推移。

油送船は白油、ケミカル、高圧液化が増加、高温液体は前年同月並み、黒油、耐腐食は減少が見られました。

前月の台風に伴う荒天の影響により繰り越される貨物が見られたとのことです。

７月の貨物船の輸送量は、前年同月比１０８％で、前月比で１１４％となっております。

鉄鋼は１１６％。広範囲で荒天の影響が見られましたため、繰り越された貨物により増加したとのことです。

原料は１０７％。石灰石、スラグ、非金属鉱、金属鉱、その他原材料など全て増加で推移となっております。

燃料は８３％。石炭は、石炭火力発電所の点検・トラブルや専用船の修理に伴う稼働の低下により減少した一方で、コークスは増加で推移となっております。

紙・パルプは１１８％。紙、木材、パルプはいずれも増加しております。

雑貨は１１１％。月末に発生した熊本地震の影響により、ＪＲ貨物のコンテナの一部について内航船による代替輸送が見られております。

自動車は１１３％。台風による前月からの輸送繰り越しに加えまして、前年の反動増となったとのことです。

セメントは１０５％。台風による前月からの輸送繰り越しに加えまして、一部で入渠を終えたセメント専用船の復帰により、輸送量を増加させた船社もあったとのことです。

続きまして、油送船の概要です。

油送船の輸送量は、前年同月比１０４％、前月比１１０％となっております。

黒油は９９％。中東情勢の影響による製品不足と荷動き低迷により輸送量は微減となったとのことですが、一部製油所におきますトラブルの解消に伴いまして、今月は輸送量の持ち直しが見られているとのことです。

白油は１０３％。航空燃料の需要増加に加えまして、製油所の定期修理に伴う製油所間転送の増加もありまして、輸送量は堅調に推移となっております。また、７月の時点では、中東情勢の緊迫化によります影響は前月と比べて徐々に解消されつつあったとされております。

ケミカルは１２５％。ベンゼン、キシレン、トルエンの輸送量がそれぞれ増加したことによりまして、ケミカル全体の輸送量も大きく増加となっております。

高圧液化は１０７％。ＬＰＧや塩ビモノマーは増加した一方で、エチレンや液体アンモニアは減少しております。ＬＰＧでは、プロパンがやや増加したものの、ブタンは減少傾向で推移となっております

高温液体は１００％。アスファルトは増加で推移した一方で、硫黄やその他の高温液体は減少で推移となっております。

耐腐食は９６％。その他の腐食性液体は増加したものの、苛性ソーダおよび硫酸の減少が影響しまして、耐腐食貨物全体では低調な推移となっております。

それでは次に、貨物ごとの状況です。

鉄鋼の前年比は、　　１１６．５％で、　前月比　１１８．１％

なお、内航総連から６月の鉄鋼の輸送実績が、２９０４千トンから２９７１千トンへの修正がなされております。

原料の前年比は、　　１０６．９％で、　前月比　１１６．２％

燃料の前年比は、　　８３．１％で、　前月比　１０８．６％

紙・パルプの前年比は、１１８．２％で、　前月比　１２２．８％

雑貨の前年比は、　　１１０．８％で、　前月比　１１０．７％

自動車の前年比は、　１１３．３％で、　前月比　１１１．８％

セメントの前年比は、　１０４．８％で、　前月比　１１４．９％

貨物船全体の輸送量は、１８１８万３千トンで

前年比１０７．９％で、　前月比１１３．９％となっています。

黒油の前年比は、　　９９．４％で、　前月比　１１７．７％
白油の前年比は、　　１０２．７％で、　前月比　１０７．０％
ケミカルの前年比は、　１２５．２％で、　前月比　１１４．７％
一般タンカーの輸送量は、７００万５千トンで
前年比が、１０３．８％、前月比 １１０．１％となっています。

続きまして、
高圧液化の前年比は、　１０７．１％で、　前月比　　１１３．６％
高温液体の前年比は、　１００．０％で、　前月比　　１０１．３％
耐腐食の前年比は、　　９５．４％で、　前月比　　１０４．２％
特タン船の輸送量は、　９３万３千トン、
前年比が、１０１．５％で、前月比１０８．６％となっており、
全てのタンカーの合計は、７９３万８千トン、
前年比が、１０３．５％で、前月比１０９．９％となっています。

次に資料５、令和８年７月における長距離フェリーの輸送実績でございます。
まずは「トラック」ですが、
北海道方面では、１３，０１１台となっており、前月比が１０８．０％、前年比１０６．４％
北九州方面では、３３，３７０台となっており、前月比が１０５．９％、前年比１０２．０％
中九州方面では、１２，３１０台となっており、前月比が１０８．１％、前年比９８．７％
南九州方面では、１１，６７２台となっており、前月比が１０６．４％、前年比１０３．３％となっています。

次のページの「旅客」では、
北海道方面では、

２０，８３９人となっており、前月比が１１９．４％、前年比９７．６％
北九州方面では、
７８，４７３人となっており、前月比が１３６．４％、前年比１０１．１％
中九州方面では、
３６，５３７人となっており、前月比が１３５．５％、前年比１０６．４％
南九州方面では、
２６，４１９人となっており、前月比が１４６．０％、前年比１０３．４％
となっています。

最後に、次のページの「乗用車」では、
北海道方面では、
７，２７１台となっており、前月比が　９９．９％、前年比９８．１％
北九州方面では、
２４，８２２台となっており、前月比が１１４．０％、前年比１０１．７％
中九州方面では、
５，６００台となっており、前月比が１３７．２％、前年比１２４．０％
南九州方面では、
７，５５０台となっており、前月比が１２６．４％、前年比１１３．０％
となっています。

説明は以上となります。

横見部会長：
ありがとうございました。
それでは、これまでの説明について質問等ございますか。

横見部会長：
私からですが、結局のところ、7月までは中東情勢の影響に伴うオイルの大きな輸送減はなかったということでよろしいでしょうか。

土屋委員：

油の供給不安の話につきまして、私どもの周辺では５月の連休明け以降は供給できないということはほぼ言われなくなりました。輸送量の方は、７月は天候が良かったこともあり、オーダーが捌けて増加に繋がったのかと思います。８月は台風やお盆の影響で少し減るかと思いますが、輸送量全体として３月、４月頃に心配していたよりは輸送量は減っていない感じかと思います。

礒合委員：

元売り各社で出荷制限をしますという話はございましたが、それは対前年度比１００％までは出すけれども、それを超えるような買い占めはさせない制限でございました。それも落ち着いてきたと元売り業者さんがおっしゃっておりました。

また、物流の目詰まりというよりも、一部の会社が買い占めしているという話も聞いてはおりましたが、確証はございませんので、普通に動いていたという印象でございます。

横見部会長：

ありがとうございます。

安達委員：

すいません。資料５について確認ですけれども、長距離フェリー輸送実績のグラフについて、例えば、トラックのデータですと令和８年度の方が令和７年度よりも多いと思うのですが、グラフでは令和７年度の方が上になっていますので、何らかの誤りがあるのかと思いますがいかがでしょうか。

山口海事振興部次長：

この場では、元のグラフのデータが確認できませんので、次回までに確認のうえ、回答させていただきます。

横見部会長：

ありがとうございます。

特にございませんでしょうか。

続きまして、資料６につきまして事務局より説明をお願いいたします。

〔田中船員労政課長より、最低賃金資料ついて説明〕

横見部会長：

ご説明ありがとうございました。

この内容で調整できていると事務局より報告を受けておりますが、何か意見はございますでしょうか。

意見なしということで今年度はこの内容で進めたいと思います。

横見部会長：

それでは次に、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題につきまして、ご意見や情報などございましたらご発言をお願いいたします。

では、まず労働者委員のほうから、いかがでしょうか。特にないでしょうか。

横見部会長：

続きまして、使用者委員のほうから何かございますか。

続いて、公益委員のほうから何かございますか。

横見部会長：

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、本日の部会は終了いたします。

次回の開催は１０月２２日（木）１６時となります。

皆様よろしくお願いいたします。

（配付資料）

資料１．令和８年８月分　近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料２．令和８年８月分　月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料３．令和８年７月分　局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料４．内航輸送実績状況（令和８年７月分まで）

資料５．長距離フェリー輸送実績の推移（令和８年７月まで）

資料６．最賃部会資料